

平成28年 第3回  
京田辺市議会定例会

一般質問（質問項目・要旨）

傍聴用

京田辺市議会

## 9月定例会一般質問日程

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
9月7日 (水)	1	あ お き こ う じ ろ う <b>青木綱次郎</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	1
	2	い ち            だ            ひろし <b>市 田 博</b> (一 新 会)	3
	3	ま す と み り    つ    こ <b>増富理津子</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	5
	4	こ ば や し き    よ し <b>小林喜代司</b> (みらい京田辺)	7
	5	お か も と し げ き <b>岡本茂樹</b> (一 新 会)	8
9月8日 (木)	6	お く に し い    さ    お <b>奥西伊佐男</b> (一 新 会)	9
	7	よ ね ざ わ し ゅ う じ <b>米澤修司</b> (みらい京田辺)	11
	8	き    た            か ず ひ こ <b>喜多和彦</b> (自民・新風会)	12
	9	す    ず    き    や    す    お <b>鈴木康夫</b> (一 新 会)	14
	10	か    わ    だ    み    ほ <b>河田美穂</b> (公 明 党)	16

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
9月9日 (金)	11	にしはたとしひこ <b>西 畑 利 彦</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	17
	12	おかもとりょういち <b>岡 本 亮 一</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	19
	13	なんぶとしこ <b>南 部 登 志 子</b> (無 会 派)	21
	14	つぎたのりこ <b>次 田 典 子</b> (無 会 派)	23
	15	よこやまえいじ <b>横 山 榮 二</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	24

※質問時間は、質問答弁併せて60分以内としています。

## 1 水道事業について

- (1) 2013年2月策定の「水道ビジョン」では、「自己水と府営水の水源バランスの見直し」が示されている。これに関連して、
- ア 今後の水需要及び計画最大給水量の見直しについての市の見解を問う。
  - イ 水道事業会計において、府営水の受水費負担は大きなものがあると考えますが、その評価と、今後、受水費にかかわる負担を抑制していくべきと考えますが市の見解を問う。
  - ウ 水源バランスの見直しにあたっては、府営水の依存率を減少させていくべきと考えますが市の見解を問う。
- (2) 全国的にも水道管設備の老朽化とその更新が重要な課題になってきている。本市において、水道管の老朽化の現状と、今後の更新などの整備費用の見通しは。
- (3) 「水道ビジョン」では水道料金体系の見直しが示されている。
- ア 市民生活が厳しくなっているもとで、本市の水道料金負担が市民生活に及ぼす影響について、市としてどう認識されているのか。  
また過去5年間の水道料金滞納者に対する「停水処分」の実施状況(処分に至った滞納件数の総額と処分を行った実件数)を明らかにされたい。
  - イ 料金体系見直しにあたっては、水道法の目的を踏まえて可能な限り「低廉」な価格を維持していくべきと考えますが、この点での市の考えは。
  - ウ 市民負担の増大を避けるための水道事業会計の効率的な運用、見直しについての市の基本的な方針を明らかにされたい。
  - エ 国、府による水道事業者への財政支援を求めていくべきと考えますが、市の見解は。

## 2 ごみ分別方法変更及び粗大ごみ・持込ごみ有料化について

- (1) 6月から7月にかけて開かれた「ごみ分別、有料化説明会」について、開催状況（開催回数、箇所数、参加人数合計）と、その評価についての市の考えは。
- (2) ごみ分別方法の変更について、市民の十分な理解が得られたと認識されているのか。また「新ガイドブック」について「字が小さい」などの声があるが、今後、改善されるのか。
- (3) 粗大ごみ・持込ごみ有料化について、市民の合意は得られたと考えているのか。ごみ減量化をはじめ、ごみ行政の推進には市民の協力は欠かせない。この点で、市民の理解が不十分なままでの有料化は強引に進めるべきではないと考えるが、市の考えを問う。

## 3 平和施策について

本市では1992年に住民の戦争体験手記集を発行した。それから24年経ったが、戦争の体験、記憶を後世に受け継いでいくために、前回の発行時には語ることのできなかつた人たちの戦争体験や、戦争遺族の方の体験の手記も含めて募集し、第二集目となる戦争体験手記集を発行してはどうか。

### 1 基盤整備事業と主要施策取組みの進捗状況と現状について

- (1) コンパクトシティ構想への取り組み状況は。
- (2) 新田辺駅から田辺高校までの市道草内薪線における歩車道分離の整備の状況と、新田辺駅東口の計画見直しによる宿泊施設設置に関する進捗は。
- (3) 京田辺市文化振興計画の策定による、懇話会の提案がある中央公民館と複合施設の整合性について、市の考えを問う。
- (4) 行政主導の施設建設は、用地確保が重要と考える。市としてコンパクトシティのための用地確保の支援の用途は。
- (5) 大住工専の地域拡大事業に更なる支援を。具体化してきた今、農振解除等の手続きなど積極的な取り組みは。

### 2 職員の仕事に対する意識改革について

職員の不祥事に対する処遇を第三者委員会で2か月の間審議された。その結果報告及び処遇は。

### 3 地域要望と問題点について

- (1) 大住地域の生活道路、市道三野松井線の渋滞緩和対策は。
- (2) 府道八幡木津線の京奈和自動車道の田辺北料金所より北区域の拡幅に対する進捗状況は。
- (3) 府道八幡木津線茶屋前右折レーン設置の進捗状況は。また、その効果はどのように評価するのか。
- (4) 桃園小学校の学童保育の現状と施設改善策は。
- (5) 池ノ端丸山線の設置要望に対して、今後の動向を見ながら検討するとあるが、可能か。

市田 博

(6) 健康ヶ丘地域の道路側溝の再整備は可能か。

### 1 障がい者施策について

- (1) 市職員の手話通訳者養成と拡充を。
- (2) 聴覚障がい者が暮らしやすい社会づくりのためにも、手話言語条例の制定を。
- (3) 災害時に障がい者に配慮した情報伝達、避難誘導、避難所運営など訓練時から支援体制や対策の充実を。
- (4) 「京田辺市障がい児・者福祉のてびき」を障がい者の方が活用しやすいものへ改善を。

### 2 安全でおいしい中学校給食の実施を

- (1) 全国の公立中学校での完全給食実施率は87.5%、京都府で71.6%になっている。また近隣未実施の自治体でも実施する方向を公表し、取り組みが始まっている。市としてこの状況をどのようにとらえているのか。
- (2) 子どもの置かれている社会状況を分析し、何よりもすべての子どもに心身の発達・成長を保障すること、教育の面、災害対策の面などあらゆる角度から『生きた教材』として学校給食を位置づけていくことが必要だと考えるが、市の考えを問う。
- (3) 「中学校昼食検討委員会」の公募決定等の推進状況と、今後の運営計画について問う。

### 3 安全対策について



- (1) 府立田辺高校校門前の交差点は変則な形になっていることもあり、歩行者や自転車にとって大変危険な状況になっている。車両と歩行者が交錯することがなくなる、または少なくなる信号表示を行う歩車分離式信号機を設置するなどの安全対策を。
- (2) 馬坂川西側歩道は、日常よく利用される生活道路である。デコボコで路側帯の傷みが激しく躓いて転んだ、側溝や馬坂川に落ちた、車の通行などで怖い目にあったなどの改善を求める声が聞かれる。室垣外橋西側は、駐車場への車と歩行者のすれ違いができないほど狭く危険である。転落防止になっているネットも途中までしかない。緊急に安全確保の対策を。
- (3) 田辺高校より東側地域の市道草内薪線の南側歩道の改良、改善を求める。病院が並び、高齢者が多く行きかう歩道であるが、道路の上がり下がりが急で傾いていることもあり、歩行が困難になっている。安心して歩ける道路への改善を。

**1 JR片町線の整備について**

- (1) 松井山手駅から木津駅間の複線化の見通しについて。
- (2) 松井山手駅、京田辺駅間の始発最終電車の営業運転化について。
- (3) 興戸地区の久保、第一和井田、第二和井田の各踏切の整備について。

**2 市の文化財政策について**

- (1) 市指定文化財について、市内の文化財の現状からも指定を増加する必要があると思われるが、市の考えは。
- (2) 遺跡（等）の説明板の整備状況について。
- (3) 保管民具の今後の計画について。

**3 内水排除対策について**

平成25年の台風18号による大雨により、市内各地区で冠水して住宅や農作物に被害が発生した。調査の結果、内水排除のための樋門の改修が必要との報告があり、また、大型排水ポンプ車も本市に配備されたが、樋門の改修について関係機関とどのような協議を進められているのか。

<b>1 文化振興計画の具体的進捗状況を問う</b>
(1) 文化振興計画の中で、文化施設の整備をどの様に具体化する予定か。 (2) 関係市民の声を今後どの様に聴取し、生かしていくのか。 (3) 日常的な市民の文化活動を今後どの様に保障していくのか。
<b>2 フリースクールについて問う</b>
(1) 市内におけるフリースクールの現状と課題について明らかにされたい。 (2) 市立小・中学校に与える影響は。 (3) フリースクールの果たしている役割は。
<b>3 新名神の進捗状況について問う</b>
(1) 当初、平成28年度末の完成と言われていたが、どのようになるか。 (2) 関連事業である防賀川改修は、予定どおり進んでいるか。 (3) 関連の松井周辺のまちづくりは進んでいるか。
<b>4 JR松井山手駅から木津駅までの複線化について</b>
あらゆる角度から、積極的に複線化を推進する要望活動を進めているか。

**1 消費税が先送りとなった今、高齢化時代を迎えての今後の本市の取り組み施策について問う**

- (1) 消費税の引き上げが先送りとなったが、増税分を財源として検討されてきた様々な国の方針も実現が極めて厳しくなった現状下にあつて、本市が進めている多くの施策の推進に影響はないか。また、介護保険制度や次期高齢者保健福祉計画への影響はどうか。
- (2) 現在本市で取り組んでいる「高齢者いきいきポイント」事業については、市民から好評で徐々に浸透してきているように感じている。その現状と今後の取り組みへの方向性について尋ねる。

**2 将来都市構造イメージとして産業ゾーンに位置づけされている草内工業地域の今後の計画について問う**

- (1) 現在、平成 27 年度からの繰り越し事業として工業地域内での排水困難地対策事業が進められているが進捗状況と完成時期、また事業完成時の改善効果が全体におよぼす影響は。
- (2) 企業誘致には工業地域全体の環境整備が不可欠である。将来のあるべき姿としてどのような構想を持っているのか。また、現在の「大住工業専用地域」、「田辺西工業専用地域」を含めたそれぞれの未利用率について尋ねる。

**3 一丁田多目的広場の利用状況と今後の計画について問う**

- (1) 指定管理者制度導入後の利用状況についての現状を尋ねる。
- (2) 現在の施設に関して、利用者から使い勝手が悪いとの声を以前からよく聞く。備品格納倉庫、簡易トイレの他、炎天下での対策等、その都度工夫をこらし改善はして貰っているが、今後施設をより充実させるための計画はあるのか。

- (3) 緑泉園協定がらみで地元と長期に渡り進められている約束事について、土地収用時に事業認定を受けた目的名称はどうであったのか。  
また本市はどのように今後計画を進めようとしているのか尋ねる。

**1 消防本部の広域化について**

- (1) 高層マンションの増加、高速道路網の拡充などによる今後の消防力についての課題を問う
- (2) 消防本部の広域化について、市の考えを問う。

**2 環太平洋経済連携協定（TPP）について**

- (1) 農業分野で、悪影響があると思われるもの、好影響があると思われるものについて、現時点での市の考えを問う。
- (2) 農業分野で悪影響があると思われるものに対する対策について、市の考えを問う。
- (3) 非農業分野での影響について、市の認識を問う

**3 異常に繁殖する竹林対策について**

- (1) 異常繁殖する竹林の現状認識について問う
- (2) 今後の市の対応について問う

### 1 便利でええやん京田辺について

来年4月に市制20周年を迎えるにあたり、市民の皆さまからロゴマークとキャッチコピーを募集され、応募多数の中から市制20周年を記念するロゴマークが、そしてまちの魅力をPRするキャッチコピーとして「便利でええやん、京田辺」と決められた。このことで市政運営に新たに「便利」というキーワードが追加されたが、このキャッチコピーの選定理由や活用方針は。

### 2 京田辺茄子選果場の評価と今後の課題について

市が特産品として生産拡大を目指す京都田辺茄子。その一翼を担う茄子選果場が平成28年5月13日に運用を開始された。出荷茄子の品質が一定し市場での評価が上がり、その評価が価格の安定につながっていると聞く。選果場運用開始からこれまでに至る市の評価と今後の課題は。

### 3 地域医療構想について

平成27年3月に地域医療構想策定ガイドラインが示され、府はそのガイドラインに基づき二次医療圏ごとに策定を開始された。

山城北医療圏ではどのようなプロセスを経て医療構想が策定されるのか。

### 4 自転車文化の普及について

喜多 和彦

本年5月に本市においてツアー・オブ・ジャパンが開催され、多くの方が自転車の魅力を感じ興味を持たれたと思われる。

自転車文化の普及に向けては、子供たちが幼少期から自転車を利用し、積極的に自転車で移動できる環境整備が必要と考える。

本市では、自転車通学をする中学生にヘルメットの配付を行っているが、小学生にも配付してはどうか。



### 1 関西文化学術研究都市での本市の位置づけ

関西文化学術研究都市の一翼を担っている本市であるが、本市の存在感、メリットについて理解されていない市民もおられる。

- (1) 基本認識として、本市の位置づけ、役割、そして享受するメリットを問う。
- (2) 2006年に開設されて10年が経つD-eggであるが、本市での起業事例が多くないなどの課題も聞く。本事業に対する課題と対策を問う。
- (3) リニア新幹線のルートは奈良方面ということで具体的には確定しておらず、学研都市もその候補の一つと山田知事が発言された。本市も南田辺・狛田地区を有しており、駅を設置する候補として手をあげることも可能と考えるが、市の認識を問う。

### 2 ワンストップで相続登記の推進を

今、全国で土地、建物の所有者不明により自治体事業遂行に支障をきたす事例が多い。そのような中、精華町では市民死亡時にワンストップでの手続き周知を図り、その一環で相続登記を励行する取り組みがNHKで報道された。

本市においても、今後様ざまな事業（例：コンパクトシティー実現、公共施設配置、空き家対策等）を進める上で、不動産所有者の正確な反映、把握は重要な基盤となる。

本件に対する認識と対策を問う。

### 3 市民ファーストの松井山手駅前開発を

現在、松井山手駅前では①松井山手スパ&ホテル水春、②モール構想、③山手南二丁目159戸開発が進められ、地元説明会が実施された。

もちろん、法令や地区計画に則った事業であるが、地元住民にとっては、治安の悪化、交通車両増加による安全面、地盤沈下（スパの温泉掘削、くみ上げ）など不安がある。本件に対する認識と指導方針・ポイントを問う。

**1 予防接種事業の充実について**

- (1) 子どものB型肝炎ワクチン定期接種化の対応は。（保護者へのお知らせの方法・周知、1歳までに3回接種出来なかった場合の対応など）
- (2) B型肝炎ワクチン定期接種の対象からもれてしまう3才児までの乳幼児に本市独自の助成を。
- (3) 高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種率向上対策を。（未接種者にハガキで再案内、国保医療課が定期的に送付している郵便物の中に「お知らせ」を同封するなど）

**2 市民サービス向上について**

- (1) 市制20周年を記念し、結婚・出生の記念として手元に残せる市オリジナル「記念用婚姻届・出生届」や、届けを提出する際に記念写真をとれる大型記念撮影用「フォトパネル」などを制作してはどうか。
- (2) 窓口サービスの改善を。（いすの改善、書類の書き込み部分の拡大、ワンストップ窓口の実施など）

**3 防災・減災対策について**

- (1) 消防団員確保の推進をする独自の支援策を拡充すべき。（学生消防団・女性消防団・機能別消防団などの推進、新団員との懇談会など）
- (2) 自主防災組織の充実と発足を促す施策を。（防災士の養成、防災リーダーの育成など）
- (3) 防災教育をもっと進める施策を。（避難所体験訓練などへの参加、HUGなど防災ゲームの実施など）

**1 幼稚園、小学校、中学校における熱中症対策について**

- (1) ヒートアイランド現象と地球温暖化により気温上昇と合わせ暑さ指数が高くなってきているが、本市としてどのようなガイドラインの下、保健指導等対策をしているのか。
- (2) 環境省が進める暑さ指数測定器を配備し、授業時やクラブ活動等できめ細やかな対策（スケジュール管理や冷房室の確保など）をすべきと考えるが。
- (3) 幼稚園におけるクーラー整備状況と今後の整備をどのように考えているのか。

**2 通学ボランティアについて**

- (1) 小学校区で活動されている通学ボランティアの現状（活動人員／必要人員、高齢化率）をどのように把握され、継続する際の課題をどのように考えているのか。
- (2) 本活動は平日休みなしでの活動に近く、ボランティアの方々も厳しい状況に置かれていることから、代替え要員確保も含め援助すべきと考えるが。
- (3) また通学路の安全確保に向けた「歩道整備・ゾーン30指定・歩車分離信号」などを組み合わせた対策を具体化することで軽減を図るべきと考えるが。

**3 まちづくりの基本姿勢について**

- (1) 災害に強く、住環境に優れ、生活の利便性を向上させるためには住民側の立場に立った法的規制と日常のチェック体制（組織・人員）が必要と考えるが。

- (2) また、6月議会で指摘（一休ヶ丘での騒音・振動・粉塵）した実態に対する対応経過と今後の考えは。
- (3) 公共施設建設にあたっては、安全と災害を及ぼす危険性を克服した整備とすべきである。とりわけ、甘南備園での新たなごみ焼却施設建設予定地は、「土砂災害防止法」による土砂災害警戒区域に指定されており、どのような設計で対策を考えられているのか。

## 1 住宅リフォーム助成制度及び、店舗リニューアル助成制度について

- (1) 良好な住環境の向上及び、住宅関連産業を中心とした経済活性化を図るため、住宅の増改築やリフォーム工事を行う市民に工事費用の一部を助成する「住宅リフォーム助成制度」を実施すべきと考えるがどうか。
- (2) 市内の商店を支援するため、店舗の新設や改築、また店舗で使用する備品の購入を行うことに対し、その費用の一部を助成する「店舗リニューアル助成制度」を実施すべきと考えるがどうか。

## 2 後期高齢者医療制度について

いま政府は、75歳以上の医療費負担を1割から2割へ引き上げ、さらには保険料の「特例軽減」制度を、平成29年度以降段階的に廃止しようとしている。年金削減と消費税増税に加えて保険料まで値上げすれば、高齢者の生活が困難になることは明らかであり、命にもかかわる問題である。このことを踏まえて下記の点を問う。

- (1) 特例軽減廃止による被保険者への影響について問う。
- (2) 特例軽減廃止についての市長の認識及び、国に対して特例軽減措置の継続を求めるよう意見表明すべき。
- (3) 短期保険証の交付について。

ア 平成27年度の滞納被保険者数及び、短期保険証の交付者（6箇月証・3箇月証）、留め置き、差押えの件数は。

イ 留め置きにより保険証が被保険者の手元になければ、受診抑制が起きていると考えるが、その認識は。また保険証が確実に届くよう対応すべき。

ウ 来庁や納付相談、及び分納誓約などの条件は課せずに、短期保険証の有効期限前に自動的に交付すべき。

### 3 公立幼稚園のエアコン設置について

- (1) 幼稚園のエアコン設置状況は。
- (2) エアコン未設置の現状についての認識は。
- (3) 幼稚園児の健康を守るために全幼稚園にエアコン設置を求める。

## 1 集合住宅における大型ごみ収集の課題について

- (1) 市は、集合住宅の場合は大型ごみも従来のごみ置き場に出す方向で調整しているようだが、他の排出ごみとの兼ね合いもあり、毎日その場所に出せる状況にはない。結果として曜日を指定せざるを得なくなるが、これでは、毎日収集可能とする他の地域との公平性を担保することができない。市の認識と対策について問う。
- (2) 高齢世帯からは、「大型ごみを従来のごみ置き場まで持って行くことができない」「集合住宅でも極力自宅近くまで収集に来てほしい」という声が出ている。市はこうした声をどう受け止めるのか。
- (3) 集合住宅の場合、ごみ置き場が少し離れているために不法投棄がされやすい環境下にある。不法投棄された場合は、投棄された側が負担をして処理を行なうことになるが、さらなる費用負担に懸念の声が上がっている。また、仮に投棄した者が判明した場合でも、現状ではそれを罰する、あるいは費用を請求できる条例がない。対策を求める。

## 2 支援を必要とする子どもたちの課題について

- (1) 支援を必要とする子どもたちが地域で学び、過ごすことの意義は大変大きい。とりわけ、共助が叫ばれる時代にあって、日常的に地域住民との交流を深めておくことは、とくに災害時などでは生命さえも左右する大きな要因となる。市の認識を問う。
- (2) 支援を必要とする子どもたちは、その状況が周囲にわかりにくければわかりにくいほど、学校を卒業してしまうと周囲からの支援が切れてしまう可能性が高くなる。卒業後にもしっかりとした関わりを持っていくためには、あるいは見守りを行なっていくためには、学校と地域、あるいは学校と市役所等が卒業前から連携していくことが必要と考える。市の認識を問う。



- (3) 支援を必要とする子どもたちのご家族、とりわけ兄弟姉妹へのサポートが必要と考えるが、市の認識と対策について問う。

### 3 茶・農業の課題について

- (1) 本市の茶業面積の推移と担い手者数、その振興策について問う。
- (2) ここ数年、摘み子の確保が難しくなっていると聞く。その対策について問うとともに、茶摘みを市職員（新人・若手）の研修にすることを提案する。
- (3) 普賢寺小学校の学校給食では、4月から子どもたちが普賢寺産のお米を食べており、大変好評であると聞いている。当初教育委員会が懸念していた数々の課題は、結局杞憂に終わった。また、大住や三山木地域の生産農家からも、地元の米を地元の子どもたちに食べさせたい、という声が上がっている。子どもたちの安心安全はもちろんのこと、生産農家や農地を守っていくためにも、学校給食における地元米使用（従来の意味よりもさらにミクロ的に）を奨励していくべきと考えるが、市の見解を問う。

### 4 交通問題について

- (1) 市道田辺平田線の交通状況の改善を求める。
- (2) 新田辺駅から田辺高校までの、高校生の通学状況の改善を求める。
- (3) ツアーオブジャパンを契機として、中山間地域における自転車の通行量が急増している。また、それら自転車の走行速度が相当早く、地域からは心配の声が上がっている。市民から被害者を出さない、そして、市民から加害者も出さない。そうした対策が必要と考えるが、市の認識と対策を問う。

<p><b>1 男女平等社会を確立するために</b></p>
<p>(1) 真の男女平等社会を確立するための市長の考えと、現社会状況の認識を問う。</p> <p>(2) 広報における性的マイノリティーについて認識を問う。</p> <p>(3) 女性の貧困への取り組みを強化せよ。</p> <p>(4) 夢フェスタのあり方について問う。</p> <p>(5) 女性交流支援ルームの活用をさらに充実させよ。</p> <p>(6) 男女共同参画センターを設置すべきだ。</p>
<p><b>2 教育問題について</b></p>
<p>(1) 夜間中学設立実現化に向け、京都府・京都市と連携をするべきだ。</p> <p>(2) 夜間中学設立に向けたタイムスケジュールを作るべきだ。</p> <p>(3) 修学旅行の行き先を検討すべきだ。(小中学校)</p> <p>ア 平和教育の視点から、広島・長崎・沖縄も候補地とすべきだ。</p> <p>イ 南海トラフの危険が報じられているのに、伊勢志摩のままでいいのか。</p> <p>(4) 教員の多忙についてどのように考えているのか。</p>
<p><b>3 野外活動センター職員による公費不適切処理問題</b></p>
<p>その後の経過と市の判断について問う。</p>
<p><b>4 駅・ホームの安全確保</b></p>
<p>J R・近鉄のホームに転落防止柵を早急に設置するよう、強く働きかけるべきだ。</p>

## 1 介護保険制度について

- (1) 政府は今、社会保障の大改悪をすすめようとしている。介護保険では、「要支援1・2」と認定された人の保険外しに続いて「要介護1・2」と認定された人にも保険外しの計画があり、国に対してこのような改悪をやめるように意見をあげるべき。
- (2) 専門職として介護に携わる労働者が働きつづけられるように、処遇改善のため「介護職員処遇改善交付金」制度を市として設置すべき。
- (3) 「介護予防・日常生活支援総合事業」について
  - ア 京田辺市では、28年3月1日から「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まった。現行サービスは維持することになっているが、現在の実施状況は。
  - イ 介護保険の有効期限満了に伴う更新、及び新規の申請手続きに変更はないか。
  - ウ 事業所に支払われる報酬は、変更がないのか。
  - エ 「基本的に現行サービスを維持する」となれば、「総合事業」は市に移行されたので、財政的裏付けが必要。今後の見通しはどうか。

## 2 子どもの貧困対策の充実を

- (1) 就学援助制度認定基準を生活保護基準の1.5倍に引き上げるなど、制度の充実を。
- (2) 給食費は家計にとっては大きな負担、全国的にも広がっている給食費の無料化・補助をすすめるべき。
- (3) 子どもの貧困対策として、居場所づくり・「こども食堂」の取り組みへの支援を。地域や団体との連携を強化するべき。

**3 住民参加による協働のまちづくりをすすめるために、現場主義の徹底を**

- (1) 各地域別要求懇談会、各分野別（青年、女性、老人など）の懇談会を開催し、市民の願いをくみ上げるべき。
- (2) 住民の自覚を高め、自治意識を向上させることにつながる、要望に添った地域ごとの「勉強会」の開催をすすめるべき。

**4 地域要望について**

- (1) 桃園小学校の施設充実、エレベーターの設置を。
- (2) 大住ヶ丘汚水処理場の跡地の活用について、地域住民を含めた対策委員会の設置を。